



山梨県流通センターニュース

編集・発行 協同組合山梨県流通センター（中央市山之神流通団地2-6-1）
TEL (055) 273-4711 FAX (055) 273-4713



▲ 新年互礼会であいさつする栗山理事長



新年互礼会であいさつする田中中央市長（当時）▶

コロナ情勢を踏まえたさらなる結束を要請

栗山理事長（株）日医工山梨、山梨県、中央市の協力に感謝表明

組合新年互礼会は、2022年1月7日（金）流通会館第2展示場で開かれ、組合員・来賓合わせて約70人が出席した。今年も新型コロナウイルス感染症対策のため、式の内容を簡素化し、来賓者は山梨県（公務のため急きょ欠席）と中央市の代表者のみ、呼びました。

冒頭、栗山理事長は昨年のコロナ情勢について触れ「組合行事も新年互礼会と総会以外は、多くが中止となった。その中で、新型コロナウイルスワクチン接種と健康診断が重なる中、同時によくできたと思った。ワクチン接種は7・8月の2か月にわたり行ったが、（株）日医工山梨の協力がなければできな

かった。山梨県にはワクチン確保に協力していただき、中央市は接種者のキャンセル対応のために、職員に協力していただいた。」

「令和3年度も引き続き卸商業団地機能向上支援事業を活用して、団地再整備事業に取り組んでいるので、今後組合が更に発展するために、全ての組合員・準組合員の理解と協力を求めたい。」と述べ、なお一層の組合員の理解と協力を要請した。

来賓としてご出席いただいた中央市田中市長（当時）から祝辞をいただき、参加者全員で新年を祝い合った。

約60人参加して防災訓練

緊急連絡網でメール配信訓練も

第4回総合防災訓練が、2021年11月17日（水）午前8時50分から、流通会館北側の中央駐車場を使用し行われた。参加者は災害対策本部長の栗山理事長を筆頭に、細田総務委員長をリーダーとしたBCP対策チーム、組合員、甲府南消防署田富出張所署員、事務局合わせて約60人となった。

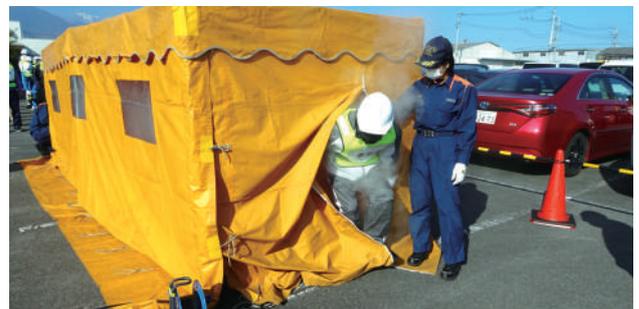
震度5強の地震が起きたことを想定し、栗山本部長からの災害対策本部設置アナウンスに続き、中央駐車場に災害対策本部が設置され、組合員が集合し、



▲ 消火器を使っでの訓練も行われた

人員確認後に開会式を開き、訓練が始まった。消防署員の指導のもと、水消火器による初期消火訓練、次に煙体験ハウスを使用した火災時の移動の仕方、発電機の操作方法、消防ホースの構え方の指導も受け、訓練を終えた。

防災訓練開始と同時にセコムの安否確認サービスによる緊急連絡網のメール配信訓練も実施した。配信訓練は震度5強の地震が発生したことを想定して、登録した組合員企業65社115人に送信し、全社から回答をもらった。この安否確認サービスは、災害時に組合が会社と会社従業員の安全状況を確認し、災害に関する情報をメールで収集することを目的としたサービスである。いざという時の連絡手段として活用していきたい。



▲ 煙体験ハウスを使っでの訓練

台風19号の水害生かし整備着々

団地再整備特別委員会 福島・須賀川卸センターを視察

団地再整備特別委員会（中込裕委員長）は参加者15人で、2021年12月10日（金）に福島県須賀川市にある協同組合須賀川卸センターの視察を行った。

協同組合須賀川卸センターからは水上哲夫理事長、経営研修会 車田真一郎会長、深谷祥子事務局長に対応いただいた。

協同組合須賀川卸センターは阿武隈川とその支流である釈迦堂川にはさまれた位置にあるため、過去何度も水害に見舞われた卸団地である。特に最近では2019年の台風19号による水害は内水氾濫と外水氾濫の複合型となってしまったため、社屋が地上2m近く浸水し、社有車が何台も水没してしまうなど組合員は甚大な被害を受けた。

そのため協同組合須賀川卸センターは組合員向けに、ホームページのトップに天気予報や、釈迦堂川の様子を閲覧できるようにライブカメラを整備し、組合員専用ページには非常時の連絡系統や車を避難させる高台の駐車場の地図、ハザードマップを掲載している。また、自衛防災会は、定期的な委員会を開いて情報を共有したり、LINEによる非常時相互連絡網を整備したりして、災害発生時や災害復興作業の連携の強化を行っている。

BCP対策の取り組みでは、水害に対応するため事務所やサーバーを2階などの高所へ移動させたり、書類をデータ化させてクラウドへバックアップしたり、

重要なものが流されないような対策を講じている。さらにエアコンの室外機やコンセントなど、水没したら使えなくなってしまう設備については高い位置へ移動して、被害を最小限にとどめられるよう努めているという。

また災害復旧のため、深谷事務局長は水害保険への加入や融資制度の利用、仕入れ商品の代替えがすぐに可能なものなのかの把握をすることを強く推奨され、団地視察を終えた。

当組合でも、中央市ハザードマップにより最大3m近くの浸水発生が想定されるため、協同組合須賀川卸センターの貴重な実体験をお聴きすることができ、今後の団地再整備に向けて大変参考となる視察となった。



▲ 釈迦堂川の氾濫に伴う被害などについて学んだ視察

ネットショップの市場動向など学ぶ

参加者BASE他導入の検討へ1歩

協山梨県流通センター主催、日本電信電話ユーザ協会、甲府商工会議所共催の「売れるネットショップ開設セミナー」が2021年8月25日（水）に流通会館で開かれ、会場に10人、オンラインで23人が参加した。

講師はNextplanning 代表 渡邊功氏で大阪府の事務所からZoomを使用して、ネットショップの市場動向、種類、開設、運営といった基本的な流れや、新しいネットショップ運営サービスの紹介、SNSを使ったマーケティング戦略について具体的な例を交えながら講演をいただいた。

参加者からは、「BASEなどのインターネットビジネスに取り組んでいかないと、コロナ禍に対応できないと思った」、「SNSからランディングページに、そして販売サイトに誘導する手法に興味を持った。今までFacebookを利用していたが、インスタグラムの導入も検討したい」といった声を聞くことができ、各社のネットショップ運営に対する気づ

きが得られるセミナーとなった。



▲ 大阪からのZoomを見ながらのオンライン研修

インボイス制度を学ぶ

定例懇談会 適格請求書等保存方式について

定例懇談会が2021年12月14日に開かれ、組合員41人が出席した。講師に、甲府税務署法人課税第1部門 上席国税調査官 玉浦正憲氏を招き、令和5年10月から始まるインボイス制度（適格請求書等保存方式）について講演いただいた。

玉浦調査官は「インボイス制度とは、買い手側が仕入税額控除を受けるために、売り手である登録事業者から交付を受けた適格請求書の保存が必要となる制度である。適格請求書として認められるためには、売り手が『適格請求書発行事業者』となり、現行で使用している請求書に追加して、『登録番号』、『税率ごとに区分して合計した対価の額及び適用税率』、『税率ごとに区分した消費税額等』を記載する必要があると説明された。

『適格請求書発行事業者』となるには、書面もしくはe-Taxによって登録申請を行い、税務署の審査を経て登録番号などが通知されることにより『適格請求書発行事業者』として認められるとのこと。玉浦調査官によるとe-Taxで申請を行うことにより、概ね2週間程度で登録されるため、早めの登録が

必要な場合はe-Taxで申請することを推奨し、講演を締めくくった。



▲ 講演する玉浦正憲上席国税調査官

「オリジナル車」づくりに挑戦

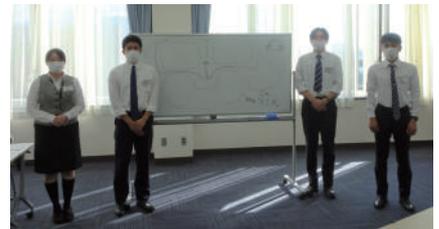
新入社員 フォローアップセミナーに取り組む

新入社員フォローアップセミナーが2021年10月7日（木）、8日（金）の両日、流通会館で開かれ6社12人が参加した。

講師は株式会社学宣の鬼塚啓介先生。4月の新入社員研修で作成した『行動開発計画書』をもとに半年間の自己の行動を振り返り、さらなるレベルアップを図るため、組織人としての基本行動やビジネスマナーの再チェック、問題解決の方法等を学んだ。受講者の問題意識向上のために、各グループで「オリジナル

の車」を考える発想法のトレーニングも行い、それぞれの特色ある車がつくられた。

受講者からは「この半年を振り返ることができてよかった。私以外の新入社員の状況を聞くことで刺激をもらい頑張ろうと思えた」や「プレゼンテーションやグループディスカッションをする中で、自分の意見・発言に自信を持つことができた」など受講者同士で刺激を得られるセミナーとなった。



▲ それぞれに「オリジナル車」のデザインを発表した参加者たち

具体的なスキル熱心に学ぶ

中堅社員 能力向上へ自己啓発誓う

中堅社員研修が2021年10月19日、21日、25日、27日にわたり、流通会館で開かれ、2社から5人が参加した。

講師に山梨県職業能力開発協会の山田圭太氏を招き、中堅社員としての役割や組織からの期待に応えられる行動について学習した。中堅社員は若手社員と管理職の架け橋となる存在であるため、上司の補佐やチームメンバーへの指導・助言といった円滑なコミュニケーション能力が必要とされるという。

5人は、仕事のサイクルとして重要なPDCAや、

能力向上のための自己啓発について学び、中堅社員としての役割を果たすための具体的なスキルを学習できる有意義な研修となった。



受講者全7人が合格する

フォークリフト 運転技能講習上々の成果

フォークリフト運転技能講習が2021年11月6日、7日、13日、14日にわたり、湯村自動車学校で開かれ、4社7人が参加した。

1日目に関係法令等の座学を受講、残り3日間で走行・荷役といった実技訓練を受ける内容だった。参加者は4日間真剣にフォークリフトの運転技術を学び、最終日の実技試験に無事全員合格することができた。

フォークリフトの使用は、法令により最大荷重1t以上のフォークリフト運転技能講習修了者でないと

運転をすることができないと定められている。業務上フォークリフトの使用がある場合は、労働災害を減らすために是非ともフォークリフト運転技能講習を受講いただきたい。



817人が予防接種を受ける

インフルエンザ 流行への備えは万全

インフルエンザの流行に備えて、流通会館で2021年10月29日、11月1日・2日、医療法人啓徹会 昭和メディカルクリニックで11月8日・16日に組合員・準組合員と従業員と家族を対象にインフルエンザ予防接種を行った。2021年22年は集団免疫ができていない可能性があるとの報道が出ており、当組合のインフルエンザ予防接種も817人と多くの申し込み者が集まった。

また、今年度は夜の部を昭和町にある医療法人啓徹会 昭和メディカルクリニックで行ったため、組合からの距離が近いこともあり昨年よりも多くの方に利用いただいた。



体力年齢を各自チェック

6社17人、反復横跳びなどに挑戦

健康運動セミナーが2021年11月25日（木）に流通会館第2展示場で開かれ、6社から17人が参加した。

講師は公益財団法人山梨県スポーツ協会の松山祥一講師、近藤悠斗講師にお願いし、握力、長座体前屈、上体起こし、反復横跳び、立ち幅跳びの5種目について、2人1組になって体力測定を行った。また、自宅でもできるストレッチやトレーニングの方法についても説明いただいた。測定結果は得点基準表に基づいて点数化し、自身の体力年齢のチェックを行った。

参加者は、自身の体力について現状を理解し、運動習慣の必要性を学ぶ良い機会となった。日々の生活の中に運動を取り入れ、コロナ禍に負けないよう健康づくりに努めてほしい。



▲それぞれ自分の体力測定と測定結果を記録する参加者

35社の159人が乳がん検診

それぞれ自身の健康状態をチェック

乳がん検診が2022年2月17日、18日に流通会館で開かれ、35社159人が受診した。

乳がんの発生は、30代後半から増加し始め、40代～50代は注意が必要になるという。早期発見し、適切な治療を行うことで、がんによる死亡を減少させることができるため、当組合では乳腺エコー検査とマンモグラフィの検査を推奨し、定期的実施して

いる。自身の健康状態把握のためには是非とも受診いただきたい。



株式会社文祥堂オフィスファシリティーズ

モットーは「お客様を大切に」 100年に及ぼうとする歴史刻む



今回は株式会社文祥堂オフィスファシリティーズを2022年1月18日に事務局（菅原）が訪問。代表取締役社長の細田 和宏氏にインタビューをし、会社の事業内容等をお聴きしました。

－会社の設立について－

大正15年に曾祖父母が甲府市伊勢町で文具店の「文祥堂」を開業したのが始まりです。昭和20年に柳町に店舗を移転し、卸売を中心に業務を拡大しました。流通団地に移転したのは昭和56年になります。

－貴社の社是について－

誠実商方徹、百折不撓魄、時流計数学、道義商道守、奉仕還元標という創業五常というものを掲げています。先々代から細田 俊会長へ代替わりした際に贈られたものだと聞いております。

－取り扱われている商品・話題となっている商品について－

卸業としてオフィス家具と文具事務用品全般を取り扱っています。また、ネット販売の『椅子王国』、[office-work.jp]にてオフィス家具のBtoCでの販売も行っています。近年のテレワークに伴って、卓上で開くと簡易ブースになるバッグや、自宅作業用のオフィスチェアの需要が増えました。他には、ペン先がぶれにくく書き心地のいいボールペンであったり、磁力で消しカスを纏められる消しゴムであったり、テレビ等で取り上げられた文具は放送後すぐに人気が出ます。

－貴社のオフィスづくりで重要視している点は－

使う人にとっての便利さ、心地よさを大切に思っています。お客様ごとに違うオフィス環境や重視しているものが異なりますので、相手のことをしっかり考えて提供するよう、また提供のお手伝いができるよう心掛けています。

－近年災害が多く発生しておりますが、組合員に向けてお薦めしたいオフィスの防災用品について－

スチール棚に合わせて箱サイズが設計された防災用品をお薦めしています。毛布、救急用品、食事から水まで様々なものがあります。単なる省スペースではなく、無駄なく収納できるため保管場所を確保しやすいのと、管理が楽になる点がメリットです。

－貴社の自慢したいものやユニークな点は－

オフィス用の椅子を社内にサンプルとして導入していますが、社員の椅子はそれぞれがその中から好きな椅子を選んで仕事をしています。皆が異なる椅子で働いているのは特徴かなと思います。

－貴社従業員のモチベーションアップのために取り組んでいることは－

当たり前の部分ではありますが、法令に則り、当然の権利を

会社名 株式会社文祥堂オフィスファシリティーズ
 代表者 代表取締役社長 細田 和宏
 住所 山梨県中央市流通団地3-6-2
 TEL 055-273-6511
 FAX 055-273-9915

当然として持っていただけようルールを整備しています。働く中での不利益がない環境、またいわゆるワークライフバランスを整えられることを重要視して進めています。

－貴社がSDGsで取り組んでいることは－

まずは「働きがいも経済成長も」でしょうか。社員にとって働く価値のある会社であると思ってもらえるように、また、産休や育休等を安心して取り、その後戻ろうと思ってもらえる会社であるように社内整備・運営を進めています。そういう意味では、企業内でやれる範囲にはなりますが、ジェンダー平等の実現にも努めています。取り扱い商材等も含め、企業の特徴としても生かせるかと思っておりますので、今後SDGsへの取り組みはより進めて行きたいと思っています。

－流通センターの魅力について－

組合内の様々な社業の方と交流を持てるのが魅力だと感じています。また、高速道路への接続もよく、いずれ建設されるリニアの駅からも近く、交通の利便性も魅力的であると感じています。

－流通センターでよく利用している事業は－

健康診断や予防接種は毎回、社員一同お世話になっております。しばらく開催されてはいませんが、『センターでバザール』も毎年楽しみにしていて、ビンゴは入社以来毎回参加しています。

－今後の貴社の業界はどのようにになると予想されますか？－

インターネット上での市場規模や比率はさらに拡大していくでしょうし、社会や働き方の変化に伴い、物の売り方買い方もまた変化していくだろうと考えています。業界として注力する分野がどのように変わっていくか、まだまだ不透明なところもあります。

－今後の目標・展望等について－

業界の変化については先ほどの通りですが、その中で働く人、物を必要とする人まで全てが機械やAIに取って代わられる訳ではありません。地場の企業として「人」を大切に、お客様に物と機会を提供していきます。近づいてきた創業100周年を無事迎え、そこからさらに先へつなげて行きたいと思っています。

－御社の魅力をひとことをお願いします－

物流のさまざまな段階のお客様と接点を持つことができる魅力のある会社です。

インタビューを終えて細田社長のお客様とのつながりを大切にしていることについてお聴きすることができました。お忙しいところご協力いただきありがとうございますありがとうございました。



環境未来(株)山梨検査センター

社員全員が企業経営に参加『SDGs推進企業』としての責務自覚



環境未来(株)山梨検査センターを2022年1月26日に事務局(菅原)が訪問。センター長の増田克也氏にインタビューをし、会社の事業内容等をお聴きしました。

－会社の設立について－

平成8年6月25日に設立しまして、長野・山梨を中心に、愛知・東京・埼玉・石川に営業所を設置して展開しております。環境測定分野はもともと一般企業の許認可は下りなかったのですが、民営化が進み、様々な許認可事業が民間に委託されたことを受けて事業を展開してまいりました。

－貴社の社是について－

『変わらない普遍の精神』

3つの姿勢

誠実 柔軟 公正

－貴社の事業内容と取り扱われている商品について－

環境分析が当社の事業です。水、大気、廃棄物、騒音振動、臭気などを取り扱っています。当社としては長野・山梨を地盤にしているため、何かに特化させるよりも、地域性に合わせて総合環境業として事業を行っております。

－ここ数年で依頼の多い検査・傾向は－

アスベストと一昨年MLAPと呼ばれるダイオキシンの検査の許認可が下りましたのでそちらに力を入れています。特にアスベストは関連法令が年々厳しくなり、一戸建ての調査も義務化されているため、しばらくは調査が続くのではないかとわかっております。

－山梨県の環境の特徴は－

水質は都市部に比べて綺麗な感じがしますね。おいしくいただいています。大気面では、都市ガスを使うボイラーが少なく、石油や重油を使うため、測定方法や基準値測定項目が異なり、都市部と違った環境を見ることが出来ます。

－貴社の自慢したいものやユニークな点は－

当社ではPCR検査を行っておりますので、社員は必ずPCR検査を受けています。はじめは全社員に実施し、営業調査は毎月1回、検査業務に携わる社員は週に1回、検査に従事している社員は毎日実施しています。衛生検査を行っている業者ならではの点だと思います。

－貴社社員のモチベーションアップのために取り組んでいることは－

半年に1回本社で全社員が集まって、各部署の業務に関し

会社名 環境未来株式会社
代表者 代表取締役 佐倉 正晃
山梨検査センター 所長 増田 克也
住所 山梨県中央市流通団地1-6-1
TEL 055-274-0788
FAX 055-274-0779

て発表を行ったり、入社した社員の紹介や資格を取得した社員の表彰を実施したりしています。他にも年に1回親睦会でボウリング大会を開催したり、3年に一度社員旅行を行ったりしています。

－貴社がSDGsで取り組んでいることは－

本社がある長野県で『SDGs推進企業』の認可を受けています。重点的な取り組みとして、環境・社会では売上やリピーター率、小さな発見に始まった地域イベントの開催をしております。社会・経済では外国人をはじめとした多様な人材を採用しております。インドネシアからインターンシップで6名いらっしゃって、そのうちの1名を採用いたしまして、実際に分析の業務をしています。

－流通センターの魅力について－

先日東ブロック懇談会の忘年会に参加しまして、いろいろな業種の方が多く、その業種ならではの話を聴くことができました。身近な団地内だけで異業種同士の情報交換ができることは魅力を感じております。

－流通センターでよく利用している事業は－

健康診断、予防接種、コロナワクチンです。混むことがあまりなく、すぐに仕事復帰できるので助かっております。

－流通センターにあつたらいいと思う事業等は－

ボウリングやソフトボールをされていることは聴いておりますが、スポーツイベントが増えると嬉しいです。

－今後の業界はどのようにになると予想されますか？－

許認可当初の家内工業から企業力・組織力が必要になり、27年経過すると機械の更新時期となりますので、一定の資本力も重要です。産業全体で考えますと、一定年数経過すると成熟産業のステージへと進むため、業界としては変化をどう乗り越えるかが重要になるかと思えます。

－今後の目標・取り組んでいきたいことは－

ダイオキシン類測定を熟知させたいです。市町村の老朽化した大規模ごみ処理施設などの焼却炉の維持管理の徹底などの当社の強みから、ダイオキシンやアスベスト調査といった分野も強化していきたいです。

－貴社の魅力をひとことでお願いします－

社員一人一人が成長の提案をできる会議を行い、入社してすぐの社員にも企業経営に参加できる環境のあるところが魅力です。

インタビューを終えて増田センター長の環境への取り組みや、今後の企業成長に関するお話をお聴きすることができました。お忙しいところご協力いただきありがとうございます。

組合員加入・脱退

会社名	加入・脱退別	住所
㈱明治関東支社	脱退	流通団地東2番地

準組合員変更事項

会社名	変更前	変更後
ユーシーシーコー ヒープロフェッショ ナル㈱甲府支店	支店長 伊藤 篤	支店長 信田 佳代

『事務局日誌』

～8～1月の主な会議等～

- ◆8月 3日 正副理事長会議
- 4日 東ブロック懇談会
- 6日 リサイクル・一斉清掃日
- 6日 北ブロック懇談会
- 10日 新型コロナウイルスワクチン
2回目職域接種開始
- 18日 団地再整備特別委員会
- 20日 LoMAの会定例会
- 25日 ネットショップセミナー

- ◆9月 2日 ワクチン2回目追加接種
- 7日 正副理事長会議
- 13日 リサイクル・一斉清掃日
- 15日 50周年記念事業特別委員会

- ◆10月 4日 研修・厚生委員会
- 5日 正副理事長会議
- 7～8日 新入社員フォローアップセミナー
- 12日 リサイクル・一斉清掃日
- 13日 団地再整備特別委員会
- 19～27日 中堅社員訓練（計4回）
- 22日 BCP対策チーム会議
- 29日 インフルエンザ予防接種

- ◆11月 1、2、8、16日 インフルエンザ予防接種
- 2日 正副理事長会議
- 6～7日 フォークリフト運転技能講習
- 12日 リサイクル・一斉清掃
- 13～14日 フォークリフト運転技能講習
- 17日 総合防災訓練
- 18日 50周年記念事業特別委員会
- 19日 理事会
（終了後、団地再整備ヒアリング）
- 25日 健康運動セミナー

- ◆12月 7日 正副理事長会議
- 10～11日 団地再整備特別委員会視察研修
（視察先（協）須賀川卸センター）
- 13日 リサイクル・一斉清掃
- 14日 定例懇談会
- 15日 団地再整備特別委員会
- 17日 東ブロック懇談会
- 22日 3回目ワクチン接種打合せ
- 29日 仕事納め

- ◆1月 5日 仕事始め
- 7日 新年互礼会
- 7日 正副理事長会議
- 12日 リサイクル・一斉清掃

かいがね

新年早々の初詣にふさわしいかどうか？・・・ご存じだろうか。長野県佐久市に「びんころ地蔵」と呼ばれる石仏がある。私が知ったのは数年前、ラジオの放送を通してだったと思う。お参りに来た老若男女の「元気に長生きし（びんぴん）、寝込まずに楽に大往生（ころり）したい」という心からの願いを成就して下さるといふ有り難い地蔵とのことだった。それを聞いて是非ご利益にあやかりたいとの思いからいつかはお参りしたいと考えていたところ、所用あって妻と上田市に行った折、帰りには佐久を通して立ち寄ることにした。だが、佐久に入ってから案内表示もなく迷った挙句、通りがかりのローソンで聞いたところ親切にも地図までいただいて丁寧に教えてもらい探し当てることができた。

そこは成田山薬師寺という寺でその山門の手前に、微笑みをたたえ頬に右手を添えた姿で地蔵さんは立っていた。意外に新しく見えた（平成15年の建立とのこと）のが少し興ざめだったが、妻と子ども何れともあれ普段以上に賽銭を奮発して「びんぴんころり」を願い、何となく安心できるような気分にもなって有り難くお参りしたのだ。

そんなことがあってから、私が所属しているウォーキング団体のメンバーに「びんころ地蔵を巡るウォーキング」を提案したところ、皆大いに喜び是非行ってみようということになった。当日は予想を上回る30人以上のほぼ高齢者の参加があり、小淵沢から小海線で中込駅まで乗り、成田山薬師寺に向けて約16キロのコースを歩いた。途中佐久市内の名所なども回りながらお参りし、メンバーがそれほど信心深いとも思えないのだが皆それぞれに気が軽くなるような有り難い気持ちにさせられる1日となったのである。

しかし考えるまでもなく、「びんころ地蔵」にお参りしたからと言って何がどうなるわけでもない。もちろんそれで老後の不安が解消したなどと言える訳でもなく、仏頼みに満足して安心と言えるはずもない。そもそも「びんぴんころり」を願うなどという風潮は昭和の時代には聞いたことがない。そんな風潮はおそらく、バブルが崩壊して世の中に不景気の風が吹き始めたころからだろう。それと前後して所謂新自由主義が広まり、小さな政府の考えのもとに行政サービスが圧縮削減され社会保障の後退が進み、それがひいては自分のことは自分でと言う自己責任の考えを生む背景ともなり、老後や将来への不安がつる状況をつくることになったのではないかと。

それは考えすぎだろうとご批判を受けるかもしれないが、因果関係がないとは言いきれない。ある程度の年齢になれば老後への不安は多くの人たちにとって意識せざるを得ないし、社会の格差は年々拡大しさまざまな階層、年齢層に広がっている。「びんぴんころり」への願望はそうした状況の些細な断面なのだろうが肉体的経済的な不安は人口の7割ぐらいの人々にとっていずれ否応なく目前に迫ってくるに違いないのだ。

そんなことを思いながら、今年も明るい年になるよう願ってやまない正月となった。

(M)